

税金とは、一体何なのか。何に使われているのか。そう聞かれた時、私は曖昧に答えることしか出来ないだろう。この作文を書けと言われるまで、税金について深く考えることは無かった。ただ、税金というイメージは生活をしているだけで、様々なところで引かれていくお金という事だった。だからこそ、あまり良い印象を持たないのだが、それは税金がどれほど重要であるかを知らないからなのだ。と調べてみて感じた。

まず税金は、自分たちの身の周りで多くの事に使われている。例えば、国民の医療費や教育費、学校や公園、道路などの施設だ。これらは、全ての国民が無料、又は安価で等しく受けることができる。そしてこれは、国民が健康で、文化的な生活を送るためになくてはならない物であるが、提供するためにはたぐさんの費用がかかってしまう。その費用は私たちが国民が「税金」という形で負担しているのである。

私が、幅広く使われている税金の中で驚いたと同時に、ありがたいと感じたのは就学支援制度である。この制度は、公立高等学校などの授業料を無償化し、低所得世帯の子どもたちを支援するというもので消費税で賄われているらしい。何故この制度がありがたく感じたかという点、私の家は母子家庭で、そして高三の兄がいる。兄は大学に行く予定で、私自身も大学に行きたいと考えているが、女手一つな上、二人の子を大学に通わせることが出来るのかといわれると、まだ中学三年生の自分でも難しいと分かる。だからどうしても金銭的な問題を考えていかなければならなかった。最終、大学を諦めるしか無いと思っていたので、この制度は、私にとって大きな光になった。

これらの様々な税金の使われ方によって、救われている人や、自分の生活を支えられている人は多いのではないだろうか。だが、救われていると言っても、税金の元は、自分た

ちが働き、稼いだ金でこうして形になって表れている物なのだ。税金によって、私達国民の生活が成り立ち、助けられているが、その税金を作りだしているのもまた国民なのだ。思った。自分のした事は、いつか自分に返ってくる。とはこういう事でもあるのかと思う。これを知った上で、もう一度税金を払うという行為にどれほどの価値があるのかを考えてみると、見え方が大きく変わってくるはずだ。税の役割を正しく理解し、関心を持つこ

とは、社会の一員としてとても大切な事だ。自分や誰かを助けていると思つて税金を納めることが出来るなら、それは素晴らしい事だろう。自分の当たり前前の生活を守るために税金を負担し、自分のために利用する。そうして今があるのだ。私も、納められる年齢になったら必ず納めたいと思う。国民で広く公平に分かち合い、支え合つていくのだ。自分のいつも通りを過ごしていくために。